

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成21年10月8日(2009.10.8)

【公開番号】特開2007-140500(P2007-140500A)

【公開日】平成19年6月7日(2007.6.7)

【年通号数】公開・登録公報2007-021

【出願番号】特願2006-283466(P2006-283466)

【国際特許分類】

G 0 9 B 27/00 (2006.01)

G 0 2 B 27/18 (2006.01)

【F I】

G 0 9 B 27/00 B

G 0 2 B 27/18 Z

【手続補正書】

【提出日】平成21年8月25日(2009.8.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

空間光変調素子及び凸レンズ光学系を有し、前記空間光変調素子上の各点からの拡散光束を前記凸レンズ光学系を介して平行光束として観察者に向けて出射する無限遠視表示部を複数備え、

前記各無限遠視表示部は、前記凸レンズ光学系の前記観察者に対向する前面側のレンズ面の周縁同士を略々密接させて並列的に配列されており、それぞれが観察者に向けて前記凸レンズ光学系を介した平行光束を出射し、異なる空間光変調素子において互いに対応する箇所からの光束は、異なる凸レンズ光学系を経て、互いに平行に出射される

ことを特徴とする無限遠視表示装置。

【請求項 2】

星像原板及び凸レンズ光学系を有し、前記星像原板上の各点からの拡散光束を前記凸レンズ光学系を介して平行光束として観察者に向けて出射する無限遠視表示部を複数備え、

前記各無限遠視表示部は、観察室内の少なくとも天井部において、前記凸レンズ光学系の前記観察者に対向する前面側のレンズ面の周縁同士を略々密接させて略々ドーム状をなして配列されており、それぞれが該観察室内方に向けて前記凸レンズ光学系を介した平行光束を出射し、異なる星像原板において互いに対応する星像からの光束は、異なる凸レンズ光学系を経て、互いに平行に出射される

ことを特徴とする無限遠視プラネタリウム装置。

【請求項 3】

前記星像原板は、空間光変調素子である

ことを特徴とする請求項 2 記載の無限遠視プラネタリウム装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 0
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 1
【補正方法】削除
【補正の内容】